

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス スローウォーク			
○保護者評価実施期間	令和7年11月14日 ～ 令和7年12月7日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	68	(回答者数)	33
○従業者評価実施期間	令和9年12月29日 ～ 令和7年12月13日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月20日 公表日令和7年12月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもに対しての個別支援	・入所の際には保護者との面談・質問紙への記入・当事者体験、入所後には行動観察・検査用紙での個性把握・保護者との懇談を実施し、それらを指導員全員で共有をして、適切な個別支援ができるように計画をする。それを元に、子ども一人一人の実態をしっかりと見ながらサポートを行う中で、さらに子どもの声を聴き、サポート中でも内容の変更をしている。また、毎回、その結果を個別支援計画に沿った記録として残し、指導員の振り返り、保護者への連絡、次回の指導員への連絡として活用している。	・フォーマルなアセスメントを取り入れたり、サポートの準備・サポート・サポート記録が指導員の過度な負担とならないようにする中で、子どもの成長に寄与でき、保護者にも分かりやすく伝えられるようにする。

2	・それぞれの子どもに合った学び方を見つける。	・個性によって子どもたちは一人一人学び方が違う。しかし、子ども自身はそのことに気づかずにいたり、従来の学習方法に合わないことで達成感を得られなかったりする状況にある。そこで、子どもへの検査、調査、観察、聞き取りなどのアセスメントを元に、子ども個性によって丁寧にに関わりながら、その子に合った学び方を見つけ、その子の自信を育てる。	・発達段階に応じて子ども自身の声をサポートに生かす。 ・指導員のサポート力向上を目指すために研修を重視し指導員の力量を高める。 ・外部の研修にも積極的に参加する。
3	・子どもと指導員との人間関係を大切にし、子どもに応じたコミュニケーション力を育てる。	・子ども一人一人の個性が違いうように指導員も個性一人一人が違う。それぞれの個性を尊重しながら、適切な人間関係が構築出来るようにしていく。その上でコミュニケーションを大切にしていく。	・子どもと会話したり、触れ合う時間を大切にする。 ・それぞれの学び方を尊重すると同時に、指導員の個性に応じた指導方法を尊重する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者同士の交流や研修の機会の確保	・他施設や公共の研修や講演の機会を保護者に紹介してきた。そこで学んだ保護者もあったり、主体的に会の主催に関わったりする保護者もあった。しかし、さらに多くの保護者の参画を求めたり、保護者同士の交流を深めていきたい。	・保護者の思いを聴きながら、保護者が求めている研修や学びの会を実施したい。 ・また、ズーム等を使って保護者が参加しやすい講座や保護者会を考えたい。
2	・第三者委員会の設置	・常に時代に合わせて変わっていく「流行の教育」、大切に持ち続ける「不易の教育」。この両者の良きバランスのために施設に対しての幅広い評価が必要である。	・来年度は可能な限り適切な評価ができる委員会を組織したい。

3	・職員が余裕を持ってサポートに取り組む。	・職員は子どもの関わりを大切にして、子どもの成長を願っているあまり、サポート準備や記録に多くの時間が取られ、職員の余裕が少なくなる場合も見ている。楽しく、余裕をもって職員が子どもに関われるように、業務改善を様々な視点から考えたい。	・職員が準備しやすい教材の配置、教材の使い方がわかる研修の実施、指導のノウハウ、分かりやすく適切な量の記録などができるように、現在も取組を続けている。
---	----------------------	---	---